

心の宝

令和3年 秋号

リンドウ
(和名・竜胆)

花言葉

悲しんでいる
あなたを愛する

宗華法本顯

- 一、私たちの宗旨は顕本法華宗です
- 一、顕本法華宗の総本山は京都の妙満寺です
- 一、私たちは日蓮大聖人が定められた大曼荼羅を御本尊として篤く仏・法・僧の三宝さまに帰依します
- 一、私たちは妙法蓮華経と日蓮大聖人の御書を教えの拠り所とします
- 一、私たちはお釈迦さまを教主と仰ぎ日蓮大聖人を宗祖日什大正師を開祖として経巻相承を宗是とします
- 一、私たちはお釈迦さまの大慈大悲を信じて努めて菩薩の行を実践します

本山総務就任のあいさつ

総本山妙満寺総務 土持 栄孝

3期9年に亘り、本山総務としてご活躍になりました吉永義康上人が、任期満了によりご退任され、この度非才を顧みず、後任として勤めさせていただきましたこととなりました。

総本山妙満寺塔頭 大慈院住職を退任し、総本山を離れること33余年、当時とは立場の違いに重責に一段と身の引き締まる思いであります。

この上は総本山のため、微力ながらも執務に邁進させていただき所存であります。何卒宜しくお願いいたします。

宗祖日蓮大聖人御降誕八〇〇年の聖年にあたります本年、毎年恒例の春季報恩大法要も、コロナ禍により規模を縮小して厳修されました。『心の宝』今号が皆様のお手元に届く頃、多少状況の変化はあるかもしれませんが、今後どうなっていくかは先が見えません。

今私たちの心や社会、環境は劇的に変化しております。しかし仏様の私たちに對する思いと教えは、時代や環境に左右されることは決してありません。仏様の教えには、私たちが正しく



土持 栄孝

昭和26年生まれ。千葉県出身。立正大
学仏教学部卒。昭和55年総本山妙満寺
塔頭 大慈院住職・妙満寺執事。『心の
宝』編集局員、宗務院主事、宗会議員、
監査委員等を歴任。平成16年千葉県茂
原市 萬光寺(本務)、光明寺、円能寺、
能泉寺、正立寺、玉泉寺、行光寺住職。

生きていくための方法が説かれ、また全てに平等で、私たちを見守り続けておられます。今のこの苦しい状況に屈せず、檀信徒の皆様と私たち僧俗一同が、共に笑顔で安心して総本山にお参りできる日が一日でも早く来ることを願ってやみません。

目次	
本山総務就任のあいさつ	1
人との繋がり	2
宗祖日蓮大聖人御降誕八〇〇年 記念コンサート幻想組曲 妙満寺	6
おつとめのお経 一語一話	8
聖訓カレンダー	10
檀信徒のひろば	13
住職からのまごころ一品	14
ぶらり寺々を訪ねて	16
ひとくち法話	18
まちがい絵さがし	20
宗門だより	22
本山だより	24
こちら編集局	25

令和2年新年号に掲載の「誰一人取り残さない」には多くのお声をいただきましたので、桑村師に引き続きのテーマでご執筆いただきました。

人との繋がり

今年3月京都で開催された、首相や法務大臣も出席の、国連最大の大規模国際会議「第14回国連犯罪防止刑事司法会議」（京都コンGRESS）において、日本の民間ボランティア「保護司」について世界各国の状況が話し合われました。犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支援する、官民協働の保護司制度は、約130年前の明治時代に日本で生まれたものです。

保護司が地域で活動するための拠点である「更生保護サポートセンター」を、海外の関係者が訪問するエクスカーション（団体で行う視察）が有り、その会場で海外の方から「日本では、なぜこれほど大変なボランティアをされるのか。なぜ人生の大切な時間を犯罪者のために使



京都府舞鶴市法光寺住職
京都府保護司会連合会会長
特命布教師

桑村信慶

うのか」との質問がありました。その時、ある女性保護司さんが「ひとりぼっちにならないように応援してあげたい、地域の子ども達を自分の子どものように世話しているだけで、特別なことはしていない」と、自然な形の奉仕の心と地域の理解が大変大切であることを伝えられました。

犯罪や非行をした人もいずれ地域に戻ってきます。少なからず彼らの背景には、相談できる人がいない孤独と孤立があるのでしょうか。



会場にて：上川陽子法務大臣(中央)を囲む
京都府保護司会連合会役員

犯罪や非行をした人が罪を償い被害者に対しての深い謝罪をしたならば、彼らを社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れる社会が必要ではないでしょうか。

罪人への仏教的考え

お釈迦様は『法句経』というお経の中で次のように説かれています。

「以前には怠りなまけていた人でも、のちに怠りなまけることが無いなら、その人はこの世の中を照らす。――雲を離れた月のように。〔法句経〕172)」

「以前には悪い行いをした人でも、のちに善によってつぐなうならば、その人はこの世の中を照らす。――雲を離れた月のように。〔法句経〕173)」

お釈迦様は、過去に*悪業を犯した者でも改心すれば弟子として迎え入れ、悟りの道をお教えくださいました。仏教には「受け入れる」という道があるのです。また、日本の『今昔物語』にも次のようなお話もあります。

平安時代初期、昼夜に法華経を誦誦し遊行修行していた法華持経者の春朝という法師がいました。春朝は慈悲心が深く、人が苦しむところを見ると自分の苦しみと思い、人が喜ぶところを見ては自分の楽しみと思う人でした。ある時、京にある東西の獄舎を見て「この罪人たちの心に仏の善根の種を植え、彼らを苦しみから何と少しでも救いたい、もしこの罪人が仏と縁を結ばずに死んでしまったら、三悪道（地獄道・餓鬼道・畜生道）に堕ちてしまふ。されば、わたくし自ら罪を犯し投獄され、彼らのそばに行き、

* 街を恐怖に陥れた殺人鬼、アングリマール指の首飾りを持つ者はその1人です。「指の首飾りを持つ者」との俗称が示す通り、猟奇殺人を繰り返していたが、100人目として狙いを定めたお釈迦様に諭されて出家しました。

心をこめて法華経を読誦し菩提の心を芽生えさせよう」と決意し、わざと高貴の人の館に入り金銀の器を盗みました。このことにより春朝は獄舎に投獄されました。春朝は獄舎に入れられると喜んで、かねての願いを遂げるために、心をこめて法華経を読誦して、罪人たちに聞かせました。

法華経を聞いた多くの罪人たちは、皆涙を流して頭を垂れて、仏縁を結びました。春朝は喜んで日夜読誦し続けたといいます。

この話が京に広まり、これを知った上皇や皇族は検非違使庁長官に「春朝なる者は、長年の法華経の持者であるから、決して拷問などはないように」と書簡を送り、また、書簡を受け取った長官も、普賢菩薩が白象に乗り春朝のために食事を供養するため獄舎を訪れている夢を見て大いに驚き、直ちに春朝を釈放しました。春朝はその後、6度も投獄され獄舎においてその都度罪人のために法華経を読誦しましたが、

罪を糾明されることはありませんでした。

しかし、7回目の罪を犯し入獄したとき、検非違使達は集まり相談し、「春朝は7回も罪を犯し、その都度処罰されずに釈放されている。今回は最も重い刑罰である両足切断に処すべきである」と決定され、春朝を刑場に連れて行き両足を切ろうとしたとき、春朝は声高く法華経を読誦し、その美しい春朝の声を聞いた役人達は涙を流し尊ぶこと限りなく、直ちに今回も春朝を釈放しました。

そしてその晩、長官はまたもや夢を見ます。気品高い童子が現れ「春朝法師が獄舎の罪人を救わんがために、故意に罪を犯し7度獄舎に入ったのは仏の方便と同じである」と告げました。この話が広まり当時の人々は、春朝はただの人ではなく権化(仏・菩薩が人々を救うため、仮の姿で現れること)の人であると敬ったのです。

法華経には人々の仏性を甦らす力があります。更生保護の「更生」二文字を一つにすれば

「甦」です。私たちの心の中には、お釈迦様から植えていただいた仏性「仏になる種」が具わっているのです。

法華経と提婆達多

お釈迦様の命までをも狙い、最後には生き残らずにそのまま地獄に堕ちた提婆達多は悪人として蓮大聖人は『開目抄』にて「今法華経の時こそ女人成仏の時、悲母の成仏も顕るれ。(提婆)達多の悪人成仏の時、慈父の成仏も顕るれ。この経は内典の孝経なり」と示され、更に『種々御振舞御書』でも「釈迦如来の御為には、提婆達多こそ第一の善知識なれ」とお示しされています。

法華経提婆達多品第十二で、お釈迦さまは「自分が悟りを開き、人々を救済することが出来たのは、私の布教をさまたげた提婆達多のおかげである。提婆達多は善知識である」と語られます。

した。善知識とは自分に善き教え、方法を教えてくれる人のことです。悪人であった提婆達多を善知識・良き友としておられるのは、罪を犯した人間を憎み、罰を与え排除するだけでは本当の解決には至らない。そのようなことも、お釈迦様は法華経によって導いてくださっているのではないのでしょうか。

昔に比べ現代人は他者との関わりが薄く、さらに昨今のコロナ禍ということも相まって、ますます人と人との繋がりが希薄になってきています。しかし、人は「人との繋がりが」の中で他の動物とは異なる高度な宗教・文化を築いてきました。このことは、「人はみな、生かされて生きてゆく」という更生保護50周年記念事業(平成11年)のキャッチフレーズにも現されています。

私たちはお釈迦様の子ども達です。お互いの繋がりを大切にし、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築きたいものです。

宗祖日蓮大聖人御降誕八〇〇年記念コンサート

幻想組曲 妙満寺

京都市交響楽団メンバーアンサンブル「弦伍楼」with 中山航介

6月6日、宗祖日蓮大聖人御降誕八〇〇年を記念するコンサート、「幻想組曲妙満寺」が総本山妙満寺本堂にて開催されました。

ピアノ演奏を通じても布教活動をされている本山塔頭大慈院 前任職 土持悠孝師(現・千葉県市原市 泰安寺住職)が、宗祖御降誕慶讃事業の一環として企画し、土持師と親交のある京都市交響楽団(京響)のメンバーによって結成の弦楽アンサンブル「弦伍楼」と、京響首席打楽器奏者の中山航介氏等が演奏。当日は、100名を超える聴衆が表現豊かな演奏に魅了されました。

開式の挨拶で、大川日仰猥下が「このコンサートを通じて、日蓮大聖人や妙満寺のことを知っていただければ幸いです」と述べられた後、演奏会が始まり、「日蓮大聖人のうた」(作詞作曲・土持悠孝、編曲・ジュビレーヌ・イデアラ)や、「あ、日蓮大聖人」(作詞・高吉日山、作曲・土持悠孝、編曲・ジュビレーヌ・イデアラ)では、法華弘通によって立正安国を願われた大聖人の尊いご精神や、力強いご生涯がマーチのリズムや、叙情的で美しい旋律で表現されました。

演奏後、河野時巧宗務総長が「妙満寺が日蓮大聖人の教えをしつかりと受け継いでいる宗派だということを、改めてこの曲で表していただきました」と感謝の気持ちを述べられました。そして、この記念コンサートの閉式をもって、宗祖日蓮大聖人御降誕八〇〇年慶讃事業の全てが円満成就いたしました。

※当日のコンサートの模様は、総本山妙満寺ホームページより視聴することができます。



大川猥下



(左)土持師、(中央)高吉師



河野宗務総長



「弦伍楼」のメンバーの皆さん

令和3年は宗祖日蓮大聖人御降誕八〇〇年です。

おつとめのお経一語一話

第十一回

お経の中には、たくさんの言葉が出てきます。

このコーナーでは、毎回ひとつの言葉にスポットを当てて解説いたします。

「良薬」

「良薬口に苦し」という格言があります。

今の薬は甘かったり、粉末の薬でもゼリーに溶かし、飲みやすかったりしますので、この格言は世代によっては伝わらないかな？

と思いつつお話しさせていただきます。

『和剤局方』や、薬草を刻むための小刀、薬壺や鉢・乳棒といった、家康愛用の道具一式などが今も残っています。また八代将軍徳川吉宗は、



江戸幕府を開いた徳川家康は大の薬マニアとして有名で、李氏朝鮮時代の製薬法の解説本

「良薬口に苦し」は続きがあります。

「良薬口に苦し 忠言耳に逆らう」とあり、中国

の故事からきております。忠告は耳にするのは痛い、行いを正すことができるが本来の意味となります。

「良薬」という言葉は、如来寿量品第十六

で登場します。お経として読みますと「ろうやく」と読みますので「是好良薬」となります。

一言でいうならば、如来寿量品のお話の「良薬」が「お題目」となります。

この薬は色も香りも良いとされ、お釈迦さまがこの色も香りも素晴らしい良薬を調合されました。それがお題目です。たとえば、「日本」という文字の中に地名や風土、文化など全てが含

まれるのと同様に、「南無妙法蓮華経」の文字の中に、法華経やお釈迦さまの教えの全てが含まれているのです。そして、良いお薬のお題目を唱えれば、心の病が癒える効果があるのです。

ところがいかに薬が味わいよくても、それを服用する我々の心にはいろんな苦しみや喜びがあり、偉い人や賢い人、どんな人にも様々な苦しみがあるものです。

「苦しみも楽しみもあるものと踏まえ、是好良薬である南無妙法蓮華経のお題目の信心を起こして唱えなさい」と、日蓮大聖人は我々にお示しにされました。

「最」後になります。この良薬には「私達は仏

の子である自覚を持ち、お釈迦さまの实在を信じて服用するのが大切です」とありますので、皆様よく味わってご服用下さいませ。

(成洋)

十月

法華經にあわせ給いぬ
一日も生きておわせば
功徳積もるべし

可延定業御書

文永十二年（一二七五）大聖人五十四歳

この御遺文は日蓮大聖人が54歳の時に身延で著述されたものです。病床にある富木常忍の妻・富木尼を心配して、常不軽菩薩は死に際

なかに唯一最上の經典です。前世の因縁で定まった運命でも法華經を深く信仰することで、良い方向に向かう功徳があるのです。

以上のように、大聖人は法華經を信仰することの大切さを説かれた上で、最後に良医（久遠実成のお釈迦さま）を紹介されています。

に法華經を受持し、六根清浄の功徳を得て寿命が延びたことや、大聖人の悲母（慈悲深い母）も法華經の功徳により4年延命したことなどの例をあげて、病氣は平癒すると慰められています。

法華經にいわく「此の經は則ちこれ閻浮提の人の病の良薬なり。もし人病あらんに是の經を聞くことを得ば、病即ち消滅して不老不死ならん」とあります。

そして医者と病人の両者に細かな配慮をして、人間関係の難しさや、機微（わかりにくい人の心）を伝えておられます。

法華經は数多くある仏教經典の

にすること」と「法華經を信仰

を伝えておられます。

十一月

法華經の利益諸經に
これ勝るべし

薬王品得意抄

文永二年（一二六五）大聖人四十四歳

この御遺文は、日蓮大聖人が44歳の時に鎌倉、もしくは清澄で著述されたといわれているものです。

お釈迦さまの教えは法華經を通して大聖人に伝授され、大聖人の御遺文から私たちは多くのことを学びます。

を捨て但法華經を信じ、南無妙法蓮華經と唱ふる人は、煩惱業苦の三道、法身・般若・解脱の三徳と転じて、三観・三諦即一心に顕はれ、其の人の所住の処は常寂光土なり、御本尊を正直に信じて受持すれば、お題目を唱えることよって三道即三徳の利益を得ることができるよう。

法華經の薬王菩薩本事品第二十三

『波木井殿御書』にいわく「日蓮は

日本第一の法華經の行者なり」、大聖

の大意を解説し、十の喩えの大海・須弥山・月・日の喩えについて論じて

法華經が諸經より優れていると述べられて

素直な心で法華經を拜読できたなら、お釈迦さまの大慈大悲をいただける

られています。大聖人は、幼少期より

お釈迦さまの大慈大悲をいただける

お釈迦さまの大慈大悲をいただける

り仏教各派を学ばれ、法華經こそ真実の教えであるとたどり着かれたのです。

ことでしょうか。『当体義抄』にいわく「正直に方便

か説かれていないと、法華經が第一の理由として書かれています。

京都市
寂光寺
(住職 大川日仰猷下)
総代表 古武司郎氏

檀信徒のひろば

～私たちの菩提寺～

このコーナーでは、各寺院で行っている特色のある法要や、催し物、檀信徒の旅行会や、青年会等の取り組みなどを紹介します。



寂光寺は、京都市内の東山地区という観光名所が多く点在する風致地区にあります。
寂光寺の法要では、始まる前に「我らの寂光寺」という歌を参詣者の大人も子供も全員で合唱いたします。「春・秋の彼岸会」「盂蘭盆法要」には、毎年130～150名の檀信徒がご家族誘い合って参詣され、コロナ禍前の堂内はいつも和やかで活気のある雰囲気でした。

法要後には必ず住職・副住職より法話があり、子供たちには別室で保育士から絵本の読み聞かせや、やさしく説いた仏教のお話などがあります。

また以前のように檀信徒が一堂に参詣され共に手を合わせる事ができるよう、コロナ禍の早期収束を心より願っています。

十二月

一生空しく過ごして
万歳悔ゆることなかれ

建治三年（一二七七） 大聖人五十六歳

富木殿御書

この御遺文は日蓮大聖人が56歳の時に身延で著述されたもので、「万歳」とは非常に長い歲月のことです。法華経の中の（方便品第二・譬喩品第三・授記品第六・化城喻品第七）と涅槃経を引用して謗法（正しい教えをそしる）の罪が大きいことを証明し、法性論では悪知識をさげ善知識に学ぶ大切さを教えられています。また、「末顕真実の経などを信仰するものは疑いを知らず、真実の法

でなければ、いつまでも成仏は叶わない。我が一門は夜は眠りを断ち昼は暇なく真実の経を追い求め、真実の法について思索しなさい」と諭されています。そして、志あるものは一か所に集まり、これを学ぶよう鼓舞されています。生きとし生けるものは等しく生老病死を過ごしていきますので、大聖人の御遺文を通じて少しでも皆さんに勇気を感じて欲しいと思います。

◆悟りへの一歩は
笑顔からはじまります
「世間の法に染まらざること、蓮華の水にあるがごとし」、蓮は泥に染まることなく美しい華をさかせ、池の水も浄化していく。蓮のように世間に穢れることなく和顔愛語で挨拶しよう。
鎌倉時代の 大聖人の教えが、『心の宝』を通して読者の皆様に伝わることを願います。

- ・真鯛は頭と内臓を取り除き、腹開きにして両面に軽く塩・コショウをふっておく。
- ・鯛の骨は柔らかいのでしっかり火を通せば食べられますが中骨などは適宜取り除いてください。
- ・トマトは湯剥きして2〜3センチ角のざく切りにしておく。
- ・ニンニクはスライスしておく。
- ・赤唐辛子はホールでも輪切りでもどちらでもよい。お好みで。
- ・パセリは刻んでおく。

辛みや刺激に弱い方、お子様へ食べさせる場合はニンニク・赤唐辛子・胡椒の有無や量を調整してください

1

熱したオリーブオイルへニンニクとタカノツメを入れて香りを出す。



ニンニクとタカノツメは焦げやすいので、ニンニクがきつね色になったらタカノツメと一緒に別皿へ取り出しておくとうい。

2

弱火から中火程度の火力で鯛を両面こんがりときつね色になるまで焼く。



3

イワシを焼きながらパスタの茹で時間を考慮しパスタを茹で始める。



パスタの種類により茹で時間が異なるので表示に従う。

住職さんのメモ

新鮮な真鯛が手に入った際は是非お試しください。開きの状態で手に入れば調理の手間が省けてとても楽になります。



4

焼き上がったイワシを一旦別皿へ移し、イワシを焼いたフライパンにトマトを加え、ざっと火を通して塩こしょうで味を整えトマトソースを作る。



トマトの食感を残す為に火を通し過ぎないこと。

5

茹で上がったパスタをフライパンでトマトソースとからめる。



オリーブオイルが好きな方は火を止める直前にオリーブオイルを適量加えると風味が増します。

6

お皿へ盛り付け、別皿へ移しておいた鯛・赤唐辛子・ニンニクをトッピングし、パセリをちらして完成です。



簡単美味しいヘルシー
いわし 鯛とトマトのスパゲッティ

材料 (約1人前)

- 真鯛..... 1尾
- トマト..... 1個
- ニンニク..... 1片
- 赤唐辛子..... 適量
- パセリ (彩り用)..... 適量
- お好みのパスタ..... 100g
- オリーブオイル..... 大さじ1
- 塩..... 適量
- コショウ..... 適量



メニュー

住職からの
まぐづぶる
一品

ご住職が、心のこもった一品を紹介していただくコーナーです。皆様もぜひ。



鯛は安くて手に入れやすく、健脳食としても栄養満点です。美味しく食べて、コロナを乗り切ってください。

吉田広心師

1984年12月26日生、千葉県市原市出身。立正大学仏教学部卒業。総本山妙満寺奉仕生修了後、品川天妙国寺山務職員の経験を経て、現在は本妙寺(市原市滝口)、妙照寺(市原市東国吉)住職を務める。



(食前の食法) 天の三光に身を温め、地の五穀に魂を養う。皆これ本仏の慈悲なり。南無妙法蓮華経。いただきます。(天の三光：太陽、月、星。地の五穀：米、麦、粟、豆、黍などの穀物。)

ぶらり 寺々を訪ねて

かつて好評をいただいた連載コーナーが新しくなりました。ご住職からの一言も紹介いたします。

第4教区

長照山 本盛寺

千葉県長生郡白子町南日当 9 1 3



開基

日蓮上人

創建

文禄3年(1594年)

住職

第43世 川崎英尚師

お寺の見どころ

本盛寺は、千葉県の中央部九十九里浜沿いの豊かな自然と、温暖な気候に恵まれた白子町にあります。本堂建替えを行い、境内は高低差もなく、老若男女問わず参詣がしやすくなっております。山号(長照山)の由来なのかは不明ですが、当山はたくさんの光に長く照らされて、常に仏様に包まれている気持ちになります。

白子町にお越しの際は本盛寺にもお立ち寄りください。



本年6月に厳修された、本堂落慶式に参詣の方々



住職として心がけていること

近年はお寺との関わりも少なくなり、疎遠になってしまいう方もいらっしゃいます。混迷とした社会情勢ではありますが、お檀家さんをはじめ一人でも多くの方々に仏教を身近に感じてもらう、正しい道に導いていければと思います。



第8教区

豊昌山 本成寺

岡山県和気郡和気町和気53



開基

本行院日然上人

創建

慶長6年(1601年)

住職

第36世 早川義正師



お寺の見どころ

■本堂……桃山文化様式。花家紋の格天井。頭貫と長押の間に御伽草子「二十四孝」の描画。和気町文化財。
 ■仁王門・仁王像……仁王門は貞享5年(1688)建立、元禄7年(1694)に仁王像完成。
 ■日本一の大題目岩……和気町中心部にある和気富士の麓の岩壁に、高さ18mのお題目が刻まれている。
 大正3年完成。和気町文化財。

住職として心がけていること

- 一、朝夕の勤行での、檀信徒健康祈念、ご先祖供養。
- 一、年間行事を大切に、
- 一、ご参詣の皆様とお題目を一心に唱えます。
- 一、お経回りを通じて檀信徒とのふれあい。
- 一、檀信徒の皆様の信仰心に支えられた本山参拝の継続。
- 一、日々の草取り、落ち葉掃きなど、境内整備。
- 一、法話では必ず「法華経の要句」をお話しします。
- 一、「漸漸修学」少しずつ、少しずつ。



ひとくち 法話

「悲話とご供養」

第一教区
第二本
福島県
米良道忠



私は、彫刻家・画家・詩人で有名な高村光太郎氏の詩集『智恵子抄』で知られる、福島県二本松市にある蓮華寺の住職をしております。

日本各地には様々な悲話が行きわたっておりますが、本題に入る前に少し、地元二本松の歴史

（現在の二本松市不動平）に移し、14軒の旅館や、3つの共同浴場、茶屋・商店などを有した十文字岳温泉として再建し、賑わいを取り戻したと記録が残っております。

《歴史に隠された悲話》

しかし、その繁栄も長く続かず、慶應4年（明治元年）戊辰戦争において、新政府軍（官軍）が進軍してくると、当地が敵軍の拠点（陣営）になることを恐れ、二本松藩士により建物が焼き払われ、また、新政府軍の手に建物が渡るのを惜しみ、自ら火を放った宿や自焼

を紐解かせていただきます。

二本松市には、登山者の間では有名な安達太良山（あだたらのやま）があります。この山に平安時代初期、坂上田村麻呂が東夷東征の際に発見した温泉があります。開湯は不詳ですが、古記録には岳温泉神社の前身だといわれる小結温泉（おひつ）神が祀られていたとされています。（863年）に従五位に列したと『日本三大実録』に記されていることから、少なくとも800年代には温泉が発見され、温泉神が祀られていたとされています。

当初は安達太良山の鉄山の麓に、小規模な湯小屋があり、江戸時代に入ると二本松藩主・

した者も多く、その火災により犠牲となつて亡くなられた遊女も多かったといわれています。

さて、その後、現在の二本松市不動平付近（十文字岳温泉跡）で、女性の物悲しくすすり泣く声があったという噂や、歴史的災難等で命を落とした方々が多数おられたことなどを土地の人々が哀れに思い、その場所に供養塔を建立することとなり、埋もれていた墓石が発見され、蓮華寺の前護持会会長で当業者でもあった遠藤紀雄氏（えんどうし）が発起人となり、地元の有志によって、昭和46年に十文字塚萬霊供養塔が建立されました。

丹羽光重公（にわみつしげ）が入府された時代に温泉街として整備され、藩主の御殿場も設けられ、さらに開発が進むと知名度も上がり、水戸藩主・徳川光圀公も寛永15年（1638年）と元禄11年（1698年）に湯日（ゆひ）温泉を訪れ、江戸中期には湯女も許可され、歓楽温泉場として賑わっていましたが、文政7年（1824年）連日の豪雨により、山津波で一瞬にして長い歴史を誇った湯日（元岳）温泉は崩壊してしまい、土砂に埋もれた犠牲者は200名を超えるほど甚大でありました。

そこで藩は、文政8年に温泉を6キロメートル程下の十文字塚に手をお通りの際は、当地の悲話を思い起こし、萬霊供養塔に手を合わせ、お題目を唱えてご供養をしていただければ幸いに存じます。

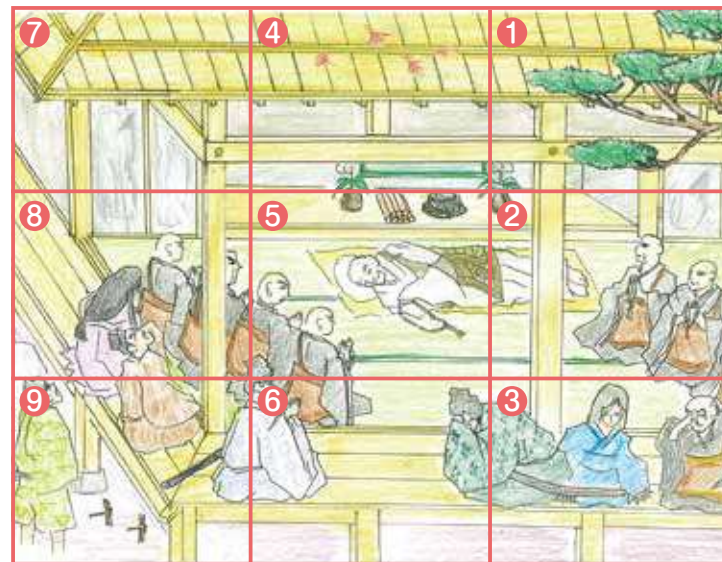
それから、当山第24世の中嶋元道上人以来50年に亘り、毎年地元の有志と共に、宗派を問わず、継続してお盆の季節にお施餓鬼供養を厳修しております。



合掌

上の絵と下の絵で違うところがある5つあります。間違いを探して番書でお答えください。正解者には、抽選で粗品をさしあげます。ぜひ、ご応募ください。

宗祖日蓮大聖人のご生涯 最終回
【ご入滅】



絵：中村文治

身延山に入山された日蓮大聖人は、弟子達や檀越^{だんのつ}に対して多くの教えを説かれる日々を送られ、また後世の私達にも、多くのお手紙（ご遺文）や、大曼荼羅^{だいまんら}御本尊^{ごほんぞん}を残してくださいました。そして何百年と続く正しい信仰の基^{もと}を築きあげられました。

大聖人は建治2年（1276年）の末頃より病^{やま}の身となられ、医術にたけた弟子である四条金吾の手当てを受けられましたが、弘安5年（1282年）を迎えると大聖人の病はいよいよよ抜き差しならぬ状態となり、常陸^{ひちご}国の温泉に行き湯治をするという話になります。9月8日可愛がっていた栗毛の馬に乗り、9月18日武州池上（現在の東京都大田区）の池上宗仲の屋敷に入られました。少しの間の滞在の予定で

したが、病勢が衰えず、旅を続けるのも心もとなく、そのまま滞在されてきました。そのような中、池上氏が建てられていた堂宇が完成したので、9月25日、慶讃法要の導師をつとめられ、さらに『立正安国論』を講じられました。そしてこれが大聖人最後のご説法となるのでした。

10月になり、大聖人は六老僧に後を托し、また14歳の経一磨（後の日像上人）に帝都の弘教を命じられました。

13日の早朝、突如として地震が起こります。大曼荼羅の前に集まった弟子信者は寿量品の自我偈を読み、厳肅な中でのお題目唱題（心一つに南無妙法蓮華経を唱えること）の中、大聖人は「法華経の行者」としての、尊い61歳の御生涯を終えられたのでした。（終）

八ガキに答えと、住所、氏名、年齢、菩提寺名、『心の宝』への感想を記入の上、下記あて先までご応募ください。

締め切り：10月末日（消印有効）

〒700-0818 岡山市北区蕃山町 3-5 本行寺内

『心の宝』まちがい絵さがし係

■ 令和3年夏号 まちがい絵さがし正解 ①、②、③、⑥、⑦

■ 当選者

遠藤紀雄様（福島県二本松市）、山岸良子様（京都市左京区）、服部美智子様（京都市左京区）、荒木八重子様（大阪府門真市）、井上斐子様（岡山市北区）

宗務院

東西僧員布教講習会

6月18日、東西僧員布教講習会(布教部長小川正展師)が、インターネットを利用したZOOMにて開催されました。

このZOOM講習会には44名が出席し、「コロナ禍における、お盆の布教について」という講題の下、特命布教師の各師より自坊等で実践されている布教方法や今後の展望について、それぞれ発表がありました。質疑応答では、参加者より活発な意見交換がありました。

第四教区

本盛寺落慶式

6月13日、千葉県長生郡白子町 本盛寺(住職・川崎英尚師)において本堂落慶式が厳修されました。梅雨の時期にもかかわらず天候にも恵まれ、川崎住職導師のもと、教区・法縁関係者、檀信徒合わせて約90名の参詣者と共に、落慶の歡びが御宝前にて奉告されました。

第六教区

総本山妙満寺塔頭大慈院住職交代式

6月13日、総本山妙満寺塔頭の大慈院において住職交代式が奉行され、教務所長はじめ近末寺院



の僧員、檀信徒約60名が出席の中、前住職の土持悠孝師が退任し、新任職として足立幸謙師(大阪府香里頭本教会 主任)が法灯を継承されました。師の今後の活躍が期待されます。

第六教区

日経上人報恩の会

7月7日、常楽院日経上人報恩の会(会長・大阪市・蓮成寺住職 吉永義康師)と本山塔頭、会員寺院有志の合同で、日経上人ゆかりの霊跡・本妙寺(京都府南丹市美山町知見宮ノ向)において、毎年恒例の先師報恩法要が厳修されました。当日は雨にみまわれる中、児玉石材、有縁の信徒も参詣され、歴代住職のご遺徳をお偲びいたしました。



遷化

即心院日恵上人



京都市・本正寺第35世、京都府木津川市・妙楽寺第41世の山本日恵院下が、令和3年7月31日に世寿91歳にて遷化されました。

8月2日、本正寺において大川日仰院下(京都市・寂光寺住職)を大導師に、しめやかに密葬が厳修されました。尚、本葬は9月12日に本正寺にて執り行われます。

略歴 昭和6年、岡山県生まれ。

昭和38年京都市・本正寺住職、平成18年京都府木津川市・妙楽寺住職に就任。伽藍復興、寺門興隆に尽力された。

宗内においては、昭和44年『心の宝』創刊号より編集局員。局長(昭和61年)等歴任。昭和49年、布教部長。以後各部長を歴任。昭和63年、ブラジル顕本寺主管。平成4年、本山総務。平成9年、宗務次長。平成12年、宗綱参議委員長、並びに妙塔学林学林長。平成16年、布教総監等宗門要職を歴任。

平成25年、顕本法華宗管長・総本山妙満寺第306世貫首に推挙され、2期6年の任期中には開祖日什大正師御生誕七〇〇年慶讃大法要、岩倉遷堂50年記念法要、常楽院日経上人第四〇〇遠忌報恩法要等各法要の大導師を務められた。



平成25年、法燈継承式にて前管長・中村院下より法燈拂子を手渡される山本院下。



開祖日什大正師御生誕七〇〇年慶讃大法要にて、慶讃文を読まれる山本院下。

皆様からのご意見、お手紙等多数いただき、誠にありがとうございます。今後も編集局員一同、読みやすい誌面を目指し努力して参ります。

夏号の盆棚の飾り方図は多いに役立ちました。仏事に関する基本をしっかり学べるものがあればもっと身近に宗教を感じる一助になるかと思います。

京都市・山岸良子さん

母が亡くなり三回忌法要をすませて、時の流れを強く感じる様になってから『心の宝』が届くとよく読むようになりました。新しい発見が沢山あり、心の安らぎを感じます。

大阪府枚方市・岩崎純一さん

「ひとくち法話」拝読させていただきました。代々の血筋が流れて今に栄えておりますことを知りました。春のお彼岸も送り、夏はお施餓鬼がまいります。心あらためてお参りさせていただきます。

東京都渋谷区・古澤幸子さん

いつも楽しみに読んでいます。誌面のお寺の山門の写真をみるとありがたく思います。

大阪府門真市・荒木八重子さん

「おつとめのお経一語一話」がとても良い勉強になります。心洗われる気持ちになります。

岡山市・井上斐子さん

「おつとめのお経一語一話」は歌のように唱えてきたお経の意味がよくわかり、80才代になってようやく賢くなってきました。実行、実現はむつかしいですが励みたいと思います。

東京都世田谷区・西村小城子さん

いつも楽しみに拝読しております。「住職からのまごころ一品」早速作ってみます。いつも朝食作りは私の仕事です。

福島県二本松市・遠藤紀雄さん

「おつとめのお経一語一話」わかりやすく楽しみにしています。「住職からのまごころ一品」もすぐ作れる内容なのでうれしいです。

京都市・服部美智子さん

毎号たのしく読んでます。
神奈川県横須賀市・野村伸子さん

孟蘭盆施餓鬼法要

8月7日、猛暑のなか大川日仰猊下大導師のもと孟蘭盆施餓鬼会が厳修されました。あわせて戦没者の慰霊および全国各地で相次ぐ災害の物故者追悼と被災地の復旧・復



興を祈念いたしました。法要後、大川猊下の御親教があり参詣者一同、真剣に拝聴していました。

本山総務交代式

6月25日、本山参与会および宗綱参議會を開催。任期満了に伴う総務の交代が審議され、3期



土持栄孝師

吉永義康師

9年務められた吉永義康師(大阪市・蓮成寺住職)に代わり、土持栄孝師(千葉県茂原市・萬光寺住職)の就任が承認されました。

吉永師は任期中、本堂裏山の取得や宗祖日蓮大聖人御降誕八〇〇年の各種慶讃事業を円成されるなど活躍されました。

土持師は、昭和26年のお生まれ。6月に退山された大慈院・土持悠孝師の師父にあたり、昭和55年から8年間、塔頭4ヶ院復興後の大慈院初代住職を務められましたので、ご存じの方も多いいと思います。同日午後3時より、大川日仰猊下大導師の



と執り行われた「総務交代式」では、吉永師から土持新総務へ本山歴代簿や総務着用の五条が伝達されました。土持新総務は挨拶のなかで、「30数年ぶりに本山でお世話になります。最後の「ご奉公」と思い、精いっぱい務めさせていただきます」と決意のほどを述べられました。

宗祖日蓮大聖人報恩御会式 おえしき

▶ 1/1(金・祝)
新歳国禱会

▶ 2/28(日)
御開山会
釈尊涅槃会
宗祖降誕会

▶ 3/20(土・祝)
春季彼岸会

▶ 4/3(土)
花まつり

▶ 5/22(土)・23(日)
宗祖日蓮大聖人
御降誕八〇〇年
慶讃大法要

▶ 8/7(土)
盂蘭盆施餓鬼会

▶ 9/23(木・祝)
秋季彼岸会
敬老会

▶ 10/12(火)・13(水)
宗祖日蓮大聖人
御会式

▶ 12/5(日)
釈尊成道会・
大根だき

▶ 12/31(金)
除夜の鐘

10月12日(火) 18:00 ~
逮夜法要 大導師 大川日仰猷下

10月13日(水) 11:00 ~
正当法要 大導師 大川日仰猷下
法話 特命布教師 藤本智成上人(岡山本經寺住職)

日蓮大聖人は、弘安5年(1282)10月13日、聖寿61歳をもってご入滅されました。この時、庭先の桜が時ならぬ花を咲かせたと伝えられています。

御会式は、末法に生きる私たちに、命がけで法華経とお題目の信仰を弘めて下さった大聖人のご遺徳をお偲びし、報恩感謝の誠を捧げる大切な法要です。

山内一同、皆様方のご参詣をお待ちしております。



日什大正師留魂の根本道場

けんぽんほつ けしゅう そうほんざんみょうまんじ
顕本法華宗 総本山妙満寺



〒 606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町 91
TEL 075-791-7171 FAX 075-791-7267
郵便振替 01060-8-5040 (口座名「妙満寺」)
HP <http://myomanji.jp/>



季刊『心の宝』第127号(令和3年秋号)

発行所 顕本法華宗宗務院

〒 606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町 91 総本山妙満寺内

TEL 075(791)7171 FAX 075(791)7267 HP <http://www.kenpon.jp/>

発行日 令和3年8月20日

菩提寺